

平成16年度 応用理学部会見学会及び研修会

- 主催 (社)日本技術士会 東北支部 応用理学部会
開催日 平成16年7月16日(金) 午後1時～4時
場所 奥松島縄文村歴史資料館内 宮城県桃生郡鳴瀬町宮戸字里81-18
参加者 27名 (会員19名、非会員8名)
研修内容 1) 資料館の常設展示品の見学
2) 映像シアター鑑賞 「縄文のムラ 里浜貝塚(国史跡)」
3) 講演会 講師 菅原弘樹氏 奥松島縄文村歴史資料館主幹兼学芸員兼学芸係長
貝塚からみた縄文人の暮らし
—発掘によって明らかにされる日本人の歴史—

上記、演題に沿ってまず、考古学の歴史と現状を①近代考古学の黎明期②戦後の高度成長期③考古学の現状と課題に分けて経験談を交えてお話を頂いた。引続き、貝塚からみた縄文人の暮らしと題し“貝塚は、縄文人のタイムカプセル”であると①縄文人やイヌの遺骸②骨角・牙・貝製の道具類③縄文人の生ごみ④貝層の等の発掘から当時の生活環境が推測できると熱く縄文のロマンを語って頂いた。そして、最後に当地の「里浜」貝塚について他の貝塚に負けない規模であることを力説頂いた。また、現在、貝塚の調査によって建設が一時中断している鹿島台病院の現状についてもお話を頂きました。

最後に、質問タイムを設け参加者から多数の質問やご意見を賜って盛況の内に終了した。研修時間を大分オーバーしましたのでまだまだご質問があったようですが、打ち切りとさせて頂きました。

4) 見学会

当初、講演の後に、「里浜貝塚」を菅原講師による説明を受けながら見学する予定でございましたが、数日來の雨により現地を歩くことが出来ないということで中止にいたしました。はりきって参加された皆様にお詫び申し上げます。機会がございましたらもう一度プライベートで見学して頂ければと思います。その分、貝塚の見学時間を更にオーバーしてまで熱く菅原さんの経験談を交えた縄文のロマンや我々開発に携わっている側への提言などのご講演を頂きました。

以上(報告 佐藤幹事)



講演会の研修状況



歴史資料館内の貝塚の断面の前で